

平成 27 年 2 月 6 日

中央労働災害防止協会
教育推進部長 角元利彦
【照会・取材対応】
総務部 上席専門役 間宮直樹
(電話) 03-3452-6542 (FAX) 03-3452-9225
E-mail koho@jisha.or.jp

調査研究結果報告

平成 26 年度労働災害防止対策補助事業

化学設備等の非定常作業における 安全衛生対策のガイドライン の見直し案

中央労働災害防止協会（中災防）では、平成 26 年度に下記の調査研究事業を行い、この度その結果がまとまりましたので、別添の『平成 26 年度 労働安全衛生研究セミナー』（東京、大阪）において発表いたします。

中災防では、企業が直面する産業構造や就業形態の変化などの環境変化に対応した安全衛生管理の促進手法についての検討を行い、その成果を広く役立てていただくために公表しています。

今年度は、①化学設備等における非定常作業の安全、②熱中症予防対策のためのリスクアセスメント、③安全な職場づくりのためのコミュニケーションの3つをテーマに調査研究を進めてまいりました。

ここでは、『化学設備等における非定常作業の安全に関する調査研究』についての発表内容の一部を紹介します。

記

◆ 化学設備等の非定常作業における安全衛生対策の見直し案

化学産業界においては、近年、プラントの爆発・火災等の重大事故が増加傾向にあり、社会的にも厳しい目が向けられている状況にあります。それらの重大事故が緊急シャットダウンやスタートアップ、設備の保守作業中などの非定常作業において多く発生しており、原因・背景にはリスクアセスメントや人材育成・技術伝承等に問題があると指摘されています。

このような中、中央労働災害防止協会（中災防）では、「化学設備の非定常作業における安全衛生対策のためのガイドライン」の内容に関して見直し案をまとめました。

【見直し案の構成】

1. 目的

2. 用語の定義
3. 対象とする非定常作業
4. 元方事業者、関係請負人等の責務と横断的安全衛生管理体制
5. 作業の実施前準備と事前評価
6. 作業実施時における安全衛生管理体制の確立
7. 作業計画書の作成と承認系統、関係者間の相互連絡、確認
8. 作業実施にあたっての留意事項及び安全措置
9. 作業実施時の作業許可と確認の流れ
10. 緊急事態への対応
11. 定期的安全衛生教育における非定常作業に係る教育とパトロール

そのほか、実際に事業場で見直し案の内容を実践する際に参考となる資料や災害事例を紹介しています。

【主な見直しのポイント】

(1) 作業の実施前準備と事前評価について（リスクアセスメント）

非定常作業前におけるリスクアセスメントおよびリスクの低減措置の実施について、災害要因別に具体的な低減措置の事例を示しています。

(2) 元方事業者、関係請負人等の責務と横断的安全衛生管理体制について

非定常作業の安全確保の上で、一つの事業場において元方事業者、関係請負人等の責務を明確化し、元方事業者自らの安全衛生管理体制と関係請負人の安全衛生管理体制を含んだ横断的な管理組織を確立することは重要であることに言及しました。

(3) 様式例を資料として掲載

見直し案の内容を事業場で実施するための参考となる資料を 23 件掲載しています。

(4) 災害事例を収録

近年発生した非定常作業時の災害事例 12 件について、災害発生状況および原因と対策についてまとめ収録しています。

○ 調査研究結果全文は当協会ホームページに掲載します

なお、調査研究結果の全文は当協会ホームページの「調査・研究」のページに掲載します（平成 27 年 3 月公開予定）。

(<http://www.jisha.or.jp/research/report/index.html>)

JISHA 中災防

（注）中災防は、昭和 39 年に労働災害防止団体法に基づき設立された団体で、事業主の自主的な労働災害防止活動を支援するため、企業の人材の育成、安全衛生の専門技術の提供および最新安全衛生情報の提供などの安全衛生に関する総合的な事業を行っています。

会 長：榊 原 定 征（日本経済団体連合会会長）

理事長：関 澤 秀 哲